



建設が進む倶知安余市道路の余市IC付近。写真提供=国土交通省北海道開発局小樽開発建設部

ぼっかいどう学新聞

第13号

2023 冬号



後志の「食」と「観光」を推進 倶知安余市道路を支える寒冷地仕様

第8期北海道総合開発計画で戦略的産業として位置づけられた「食」と「観光」。小樽、ニセコの有名観光地を擁し、多様な農水産物の生産地でもある後志で、倶知安余市道路の建設が進んでいる。救急搬送でも、災害時の代替路としても期待されるこの道路を支えるのが寒冷地道路構造だ。「食」と「観光」を担う「道」に迫った。

国際リゾートへの道

小樽、ニセコを軸とした観光振興と、多様な農水産物の生産空間を展覧させていくために欠かせないインフラの一つが、倶知安余市道路だ。延長39・1kmの一般国道で自動車専用道路になる。後志自動車道（倶知安IC（仮）～小樽JCT／延長62・4km）のうち、倶知安町と余市町を結ぶ。開通済みの余市IC～小樽JCTと接続し、さらに全道の高速道路ネットワークとつながって、札幌、新千歳空港、苫小牧港などが結ばれることになる。

小樽開発建設部工務課課長の多田和広さんはこう語る。「国際リゾートは、国際空港から2時間以内のアクセスが求められますが、現状では新千歳空港からニセコまで夏期でも130分以上かかります。それが本道路の整備で2時間を切るようになります。現状は、他地域と比べてカーブが多く幅員の狭い道でありながら交通量が多いのが特徴で、大雪時に上り坂で大型車が立往生しやすい稲穂峠、倶知安峠もあります。さらに後志地域の農産品の8割が道外に出荷され、ブランド農作物も全道平均の2倍以上もありなが

ら、国道5号には国際コンテナ車両が通行できないトンネルがあります。整備により札幌都市圏へはもちろん、小樽港や新千歳空港、苫小牧港などを通じて全国への出荷が円滑になります」。倶知安余市道路が「食」と「観光」に寄与することを教えてくれた。

地域医療を支える緊急搬送ルートとしても欠かせないものになる。地域内の緊急搬送の約半数が高次医療施設のある小樽市や札幌市への搬送だが、国道5号は患者の負担が大きく、倶知安町から小樽市まで81分かかる。整備により62分に短縮される。さらに2000年の有珠山噴火時には北海道縦貫自動車道が約15カ月間も通行止めになり、大きな支障が出た。こうした災害時、太平洋側の代替路としても期待される。

工事の要はトンネルである。北海道開発局建設部道路建設課長補佐の佐々木博一さんによると「稲穂トンネルは昭和37年竣工で、昭和30年の基準で造られています。日本最長の直線1230mが誇りでしたが、当時は交通量が少なく、車両も小型でしたが、今は地元から狭小で不便だという声が上がっています。上下線分離の新稲穂ト

ほっかいどう学 前進中! ※以下、肩書きは開催当時のものです。

①第39回寒地技術シンポジウム 開催報告

今年で39回目となる「寒地技術シンポジウム」が11月28日から3日間の日程で開催されました。今年の「ほっかいどう学特別セッション」は、ほっかいどう学の原点である「雪学習」にフォーカスし、6本の発表がありました。札幌市の教員向けに10年以上発行されている「札幌雪学習ニュースレター」はじめ、20年以上にも及ぶ北海道における「雪学習」の活動経緯を振り返り、これまでの成果と課題を共有する発表もあり、改めて北海道における「冬」「雪」を学ぶ意味を考える時間となりました。また、野原翔太先生(旭川市立忠和小学校)が、寒地技術賞(地域貢献部門)を見事受賞されました。これは、昨年度発表された「小学校社会科における「オホーツクみち学習」の取り組み～第4学年『雪の災害にそなえて』」に対するものです。野原先生おめでとうございます。



寒地技術賞(地域貢献部門)を授賞された野原先生

②みち学習 トライアル授業・動画クリップ 今年も続々

全道各地の教員、そして全道10の開発建設部の皆さんと連携して取り組んでいる「みち学習」。今年も新しい実践が次々と生まれています。インフラに関する授業といえば、「社会科」や「総合の時間」と捉えがちですが、今年は生活科、道徳、家庭科、図工、保健にいたるまで、そして対象も小学1年生から高校生まで、バラエティに富んだトライアルが進められています。さらに、授業教材の一つである「動画クリップ」もGIGAスクール時代に対応して「短くシンプルに」、「子どもが自分で選べる」などのポイントを押さえ、昨年より、より使いやすいものに進化しつつあります!今後の実践報告にぜひ、ご期待ください!



画面を拡大しながら教材に見入る児童の様子

③北海道を学ぶ「デジタル副読本」への挑戦

動画づくりと並行して「デジタル副読本」の製作も進めています。小学校社会科の授業で教科書代わりに使われることも多い「副読本」。これまでは全道の各教育委員会で、ほぼ教員のボランティアによって製作されてきましたが、教員不足、働き方改革の中、副読本の質を保つことが難しいという声が多く聞かれました。そこで、当法人とデザイン会社がタッグを組み、新しい授業スタイルにも対応した「デジタル副読本」を製作中です。今後、全道に共通する単元のデジタル副読本を作成し、各地域に共有していく予定です。こちらもぜひ、ご期待ください!



製作中のデジタル副読本の一例

※以上のセミナー等の詳細は、ほっかいどう学HP(QRコード)からご覧ください。➡



会員募集中 一緒に「ほっかいどう学」を創りましょう!

ほっかいどう学を応援して下さる皆さま、ぜひ、当法人へのご入会をご検討ください。会員の皆さまには、この「ほっかいどう学新聞」を郵送でお届けするとともに、各種情報(セミナーやインフラツアー開催案内等)をメールにて最速でお知らせします。ご入会の案内は右のQRコードよりご覧いただけます。

